

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2025年6月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	・ ・ ・ 3
2 各軍等	・ ・ ・ 4
3 対台湾動向	・ ・ ・ 10
4 対日動向	・ ・ ・ 12
5 南シナ海動向	・ ・ ・ 16
6 軍事交流	・ ・ ・ 17
参考文献	・ ・ ・ 19

中国軍事動向月報：2025 年 6 月

2025. 7. 7

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 全 般

6 月は、軍の 2 コ空母編隊の西大西洋遠海訓練や陸軍の着上陸訓練・戦備訓練等、訓練の活発化が確認された。

台湾周辺においては顕著な活動は確認されなかったが、金門周辺海域での中国海警によるパトロール常態化に引き続き、東沙海域においても本年に入り月 1 回程度の海警船による制限水域進入が定例化されつつあり、東沙周辺での中国公船によるプレゼンスを常態化させようとしている。

日本周辺では、2 コ空母編隊の西大西洋遠海訓練に関連し延べ 90 隻以上の艦艇が活動し、空母遼寧の南鳥島 EEZ 内で活動、空母山東艦搭載機の海自 P3-C への異常接近等が確認された。実海域おける接近阻止の訓練や第 2 列島線進出時の日本の警戒監視態勢を確認した可能性がある。

また、尖閣周辺では海警船が通常と違うパターンで領海侵入をしており、尖閣任務海警編隊が軍との訓練に連携して領海侵入した可能性もある。

南シナ海においては、引き続きフィリピン（以下、比）への威圧を継続した。特に 14 日、海上自衛隊と比海軍の南シナ海での共同訓練同日に南部戦区が海空統合パトロールを行っており、比と日米豪等との連携を強く警戒している。

軍事交流では、マレーシア海上法執行庁艦船が初訪問した。中国海警局は本年 1 月に訪中したインドネシア海上保安機構長官と初のハイレベル会議を開催した。また、ベトナム海洋警察とはトンキン湾合同パトロールを定期的実施しており、4 月に 1 回目が終了している。南シナ海周辺国である、マレーシア・ベトナム・インドネシアとの海上協力を強化し、比包囲網形成を図っている可能性がある。

2 各軍等

(1) 全 般

○ 「軍事施設建設条例」公布¹

6月5日、「軍事施設建設条例」が公布され、2025年8月1日から施行される。

同条例では科学的に軍事施設建設の基本原則・管理体制・施行メカニズム・実施制度を定め、軍事施設の質、効率、後方支援能力を向上させる根拠となるものである。

○ 高官人事

6月27日、全人代常務委員会第16回会議は、全人代常務委員会の「苗華の中華人民共和国中央軍事委員会委員の職務を解任する」決定²を、また海軍軍人代表大会の「李漢軍の第14期全人代代表の職務を罷免する」決定³を公表した。

【コメント】

苗華は中央軍事委員会委員・中央軍委政治工作部主任（海軍上将）であったが、昨年11月に「重大な規律違反」の疑いで調査を受けていることが公表され、4月に全人代代表を罷免され、今回中華人民共和国中央軍事委員会委員の解任が公表された。今後、中国共産党中央軍事委員会委員も解任されれば、党・国家の一連の手続きが終了し、裁判手続きに入っていくと思われる。

李漢軍は海軍参謀長（海軍中将）であり、現在の役職は未確認であるが、苗華との関係により全人代代表を罷免された可能性もある。

(2) 陸軍

○ 東部戦区陸軍の機動戦備訓練

東部戦区陸軍の機動戦備訓練

- 6月19日東部戦区公式SNSで、陸軍第73集団軍某旅団の機動戦備訓練が報道
- 命令受領後、直ちに通常戦備から「一級戦備態勢」に移行
- 部隊は資器材の受領・燃料補給等を行い、目的地に向けて機動し、臨戦訓練を実施

(資料源：東部戦区微博 20250619)

駐屯地からの緊急出動



起動しての陣地占領



中国の戦備態勢

段階	移行条件
4級戦備	国外の重大突発事案や周辺地域に重大な異変が発生し、中国の安全と安定に重大な影響を及ぼす可能性がある場合
3級戦備	情勢が緊張し、周辺地域に重大な異変が発生し、中国に直接の軍事的脅威となる可能性がある場合
2級戦備	情勢が悪化し、中国に直接の脅威がある場合
1級戦備	情勢が極度に緊張し、中国への戦争の兆候が十分に明らかな場合

(資料源：「怀柔密云野外演练教程」2016年国防工業出版社)

- 「一級戦備態勢」移行訓練の報道は初めてではないが、公式の報道は年数回程度
- 台湾侵攻時に着上陸侵攻第1波の任務を有する第73集団軍の一級戦備移行訓練の報道により、直ちに侵攻できる準備を整えつつあると内外にアピールした可能性

○ 栈橋船との着上陸訓練

6月27日撮像のMaxar衛星画像で浙江省南田島近辺の海上で栈橋船3隻と同島内に大量の軍用車が集結している状況が確認された。(衛星画像は著作権の関係で限定公開)

栈橋船3隻は3月に広東省海岸で運用試験を行っていたものと類似の形状をしていることから、試験を終了し、台湾侵攻を担当する東部戦区の陸軍部隊と訓練段階に入った可能性がある。

本年3月に広東省海岸で試験中の栈橋船3隻



(資料源：EO Browser)

本年3月にSNSに投稿された栈橋船



(出典：The war zone 20250313)

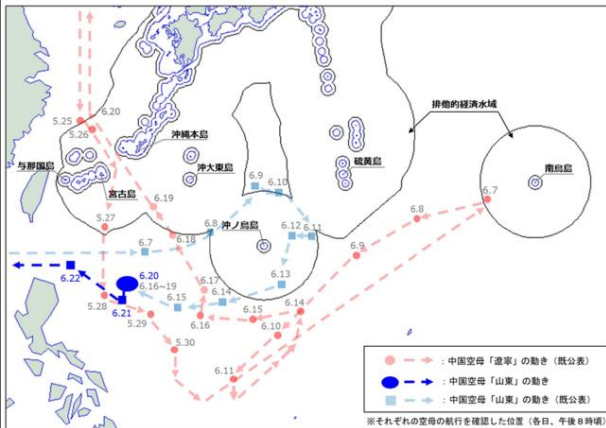
(3) 海軍

○ 空母編隊の西大西洋遠海訓練

日本側報道

防衛省発表 (6/8・11・17・23)

- 遼寧編隊 (最大10隻)
 - ◇ 6/7: 南鳥島EEZ内航行
 - ◇ 5/25~6/19の間、約700回の発着艦。1日の最大発着艦回数 (ヘリ含む) : 90回
- 山東編隊 (最大7隻)
 - 公海上空でJ-15艦載戦闘機がP-3C哨戒機を追従、高度差がない状態で水平距離約45mの異常接近
 - ◇ 6/7: 40分間追従
 - ◇ 6/8: 80分間追従、P-3Cの針路前方約900m (高度差がない状態) を横切り
 - ◇ 6/9~6/19の間、約420回の発着艦。1日の最大発着艦回数 (ヘリ含む) : 50回



中国軍機 J-15 (6月8日撮影)



(出典: 左右共防衛省・統幕HPの図・写真に黄色字は筆者が追記)

- 全兵装ではないものの、空対空ミサイル装着し、追尾できる艦隊防空能力を保持
- 遼寧vs山東の対抗演習を実施し、グアム方向から台湾に接近する空母群を阻止する訓練を**実際の海域**で演練した可能性も

2

中国側報道: 訓練間

海軍報道官発表 (6/10)

- 遼寧・山東の空母編隊が西太平洋等で訓練実施、遠海防衛能力と統合作戦能力を検証
- 任務遂行能力の向上を目的とする年度計画に基づく定例訓練



- 5月に8回目の海上試験終了
- 年内に就役の可能性

今次訓練の目的

- 遼寧・山東はスキージャンプ式で固定翼早期警戒機が運用できないため、中国沿岸・南シナ海人工島からのレーダー覆域外での作戦は困難
- ⇒ 福建就役を見据えた随伴艦・艦載機の実戦的訓練
- 有事の際、福建の運用を想定する**実海域**で、**空母と随伴艦 (潜水艦含む) の連携**を演練
 - 艦載機が**緊急避難可能な陸飛行場がない海域**で**実戦**に即した飛行訓練
 - 第2列島線進出時の**日本の警戒監視態勢偵察**

3

中国側報道：遼寧訓練後

CCTV訓練報道 (6/22)

- 「遼寧in西太平洋：実弾を装着したJ-15が雨の中、外国機を駆逐」を放映
- 外国の戦闘機4機編隊が遼寧の発艦基準線まで接近、実弾を装着したJ-15が悪天候の中、対応、駆逐したと報道

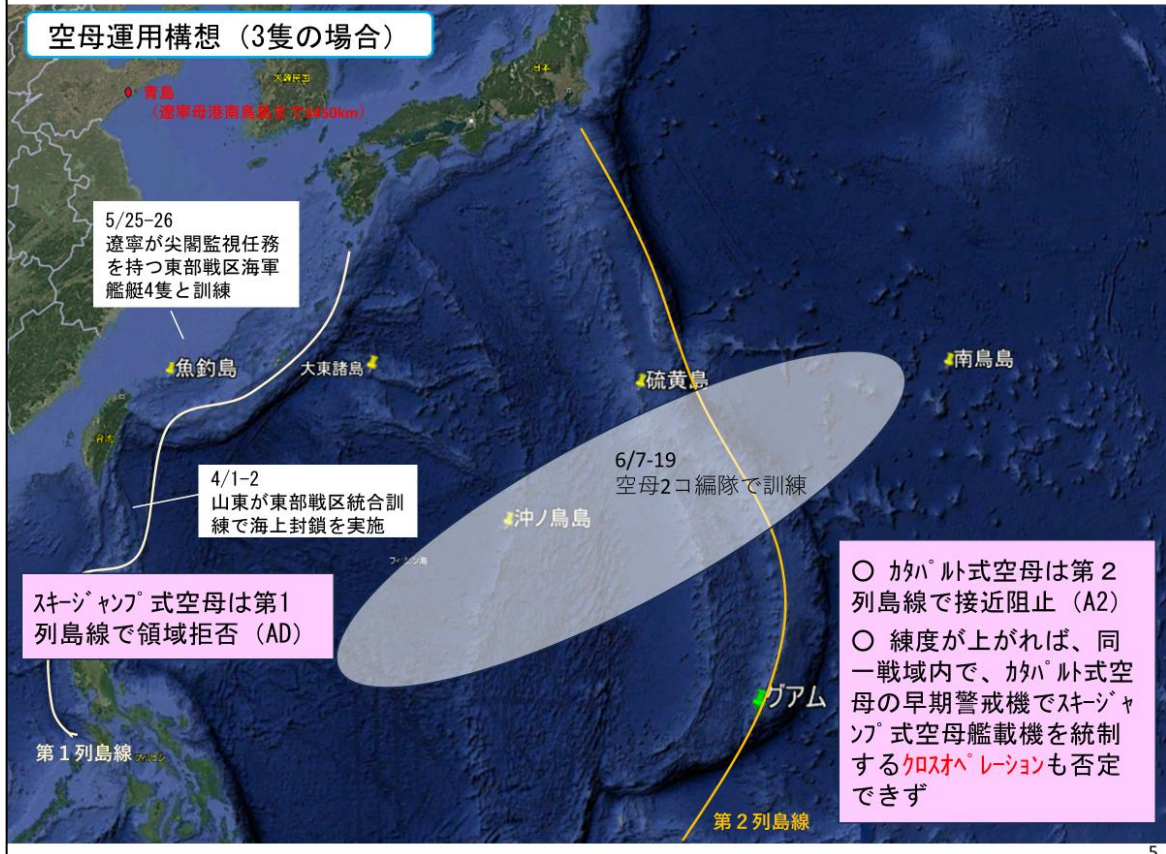


(出典：央视新闻客户端20250622に黄色字は筆者が追記、「任務影像」とある2枚は実際の訓練映像)

- 気象条件の悪い中でも一定の運用能力を保持
- 外国機は米軍機であり、中国は第2列島線でのプレゼンスを開始したと国内及び台湾に喧伝した可能性

4

空母運用構想 (3隻の場合)



5

○ 海軍と海警の協同訓練⁵

南部戦区海軍ヘリと海警の協同訓練

- 6月21日南部戦区公式SNSで、海軍航空兵某連隊のヘリ飛行訓練を報道
- ヘリ数機が海上で偵察・パトロール・搜索救難訓練等を実施。

(資料源：南部戦区微信 20250621)

海軍航空兵某連隊飛行場



海警船（甲板の塗装、艦番号の位置から推定）
に発着艦する海軍ヘリ



- 報道画像から、海警船上で海軍ヘリが発着艦をしており、海軍と海警の協同訓練が深化している可能性
- 南部戦区海軍と南海海区海警は南シナ海において連携してフィリピン公船に対応しており、海警船から海軍陸戦隊員を離陸させ対応する等運用を多様化できるよう訓練

(4) 核戦力

6月16日、SIPRI Yearbook2025 が公表された。

下表は筆者が2024年版との比較を追加し纏めたものである。

中国の核戦力(2025.1)				
注：赤字は2024年の数				
種類	発射体数	配備年	射程(km)	弾頭数
航空機	20			20
H-6K	10→0	2009	3100	10→0
H-6N	10→20	2020	3100	10→20
地上配備ミサイル	350→712			346→376
DF-5A	6	1981	12000	6
DF-5B	12	2015	13000	60
DF-5C	..	(2024)	13000	..
DF-26	216→250	2016	>3000	108→100
DF31A/AG	88→96	2007/2018	11200	88→96
DF-31-class (サイロ型)	0→320	(2024)	11200	0→30
DF-41 (移動型)	28	2020	12000	84
DF-41 (サイロ型)	..	(2025)	12000	..
潜水艦発射弾道ミサイル	72			72
JL-3	72	2022	>10000	72
その他の貯蔵弾頭				(62)→(132)
計	442→804			500→600

..: 該当なし又は不明
(): 不確実

(資料源：SIPRI Yearbook 2024・2025)

【コメント】

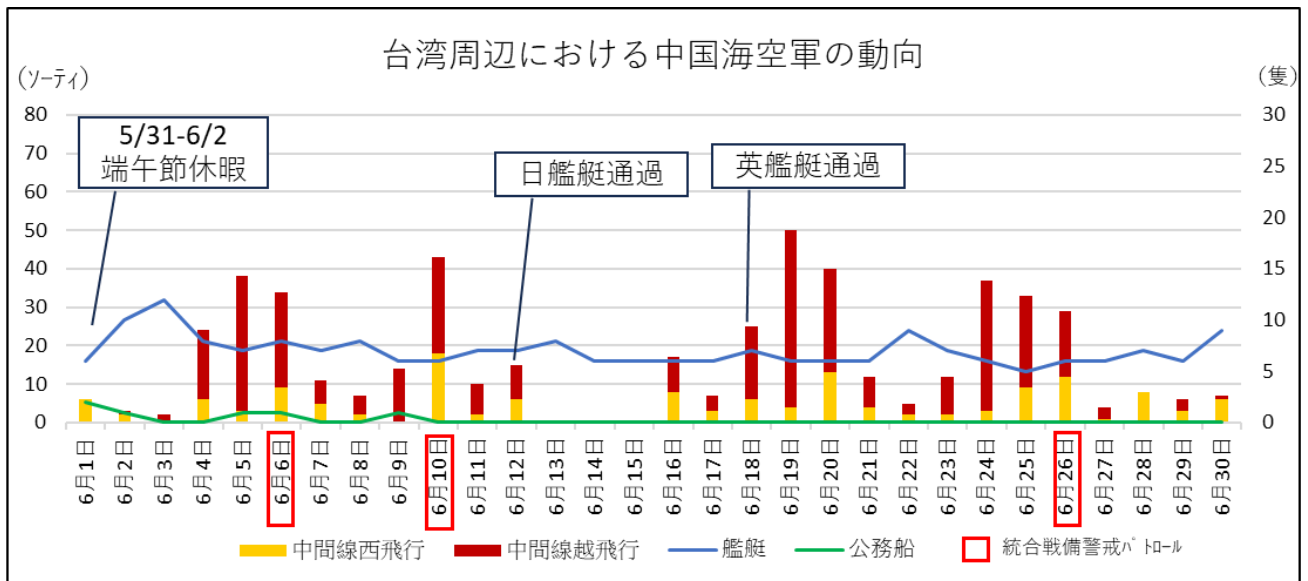
弾頭総数は昨年から100増加して600と評価された。主にDF-31サイロ型の配備及びサイロ型の可能性のある貯蔵弾頭の増加である。2024年9月にDF-31AGの可能性のある大陸間弾道ミサイルの発射に成功し予定海域に正確に落下したと見られること、内陸部の3コICBMサイロ群が完成しつつあること等からICBM用の核弾頭数が増加した可能性がある。

航空機については、昨年まではH-6K爆撃機からの核爆弾投下を想定していたが、本年から爆撃機による核投射はH-6Nによる空中発射弾道ミサイル(ALBM)に移行したと評価している。

3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

○ 中華民国国防部発表による台湾周辺における中国海空軍の動向



(資料源：中華民国国防部 HP を基に作成)

6月には中国軍機延べソーター499 (内、中間線超えが延べ356)、中国艦艇延べ210隻、公務船延べ6隻が確認。

1日における軍用機最大確認数は50ソーター、最大中間線超え46ソーター、海空統合戦備警戒パトロールは3回であった。

12日、海自艦艇「たかなみ」が、東シナ海から台湾海峡に入り、10時間以上かけて南方向に航行した旨報道されたが、防衛省からの公表はなく、中国国防部からの公式の反応も未確認。

20日、東部戦区海軍報道官は「18日に英沿岸パトロール艦スぺイ (筆者注：HMS Spey) が台湾海峡を通過し、喧伝。東部戦区は海空兵力を組織し、全行程を監視警戒し、有効に対処した」と発表⁷。

【コメント】

6月は台湾周辺の海警船が9日以降、1隻も報告されておらず、先月の40隻から激減した。

AISでは台湾海峡で活動している海警船は確認できる一方、中韓「暫定措置水域」(PMZ)で活動する海警船が増加していることも確認できる。韓国は本年に入り、中国がPMZに大型海上構造物を無断で設置したことを指摘し、双方が海洋警察を派遣していると報道もあることから、①台湾側の報告の基準が変更された、②PMZへの対応により、台湾への接近の度合いを低下させた、いずれかの可能性が考えられる。

海自艦艇が台湾海峡を通過するのは昨年9月、今年2月に続き3例目。

英国軍艦が前回台湾海峡を通過したのは2021年のフリゲート艦「リッチモンド」で、今回は4年振り。

（２）金門周辺海域での動向

台湾海巡署によると 6 月 19 日に 2 回、20・23 日にそれぞれ 1 回、6 月は計 4 回、中国海警 4 隻が金門周辺台湾制限水域への入域し、約 2 時間航行し出域した⁸。

6 月 23 日、海警東海分局報道官は「23 日、福建海警が金門付近海域において法に基づき常態化法執行パトロールを実施した」と発表⁹。

（３）東沙周辺海域での動向¹⁰

台湾海巡署によると、6 月 21 日 0600 に中国海警 3302 が東沙西北西の制限海域に進入、台湾海巡署は巡視船を派遣し、同日 0610 に離脱させた。

同署はまた「中国海警は 1 月以降、6 隻が延べ 11 回東沙制限海域を航行、更に AIS を遮断して航行しておりグレーゾーン時のハラスメントにより海巡署の法執行能力の消耗を企図している」と中国側を非難した。

【コメント】

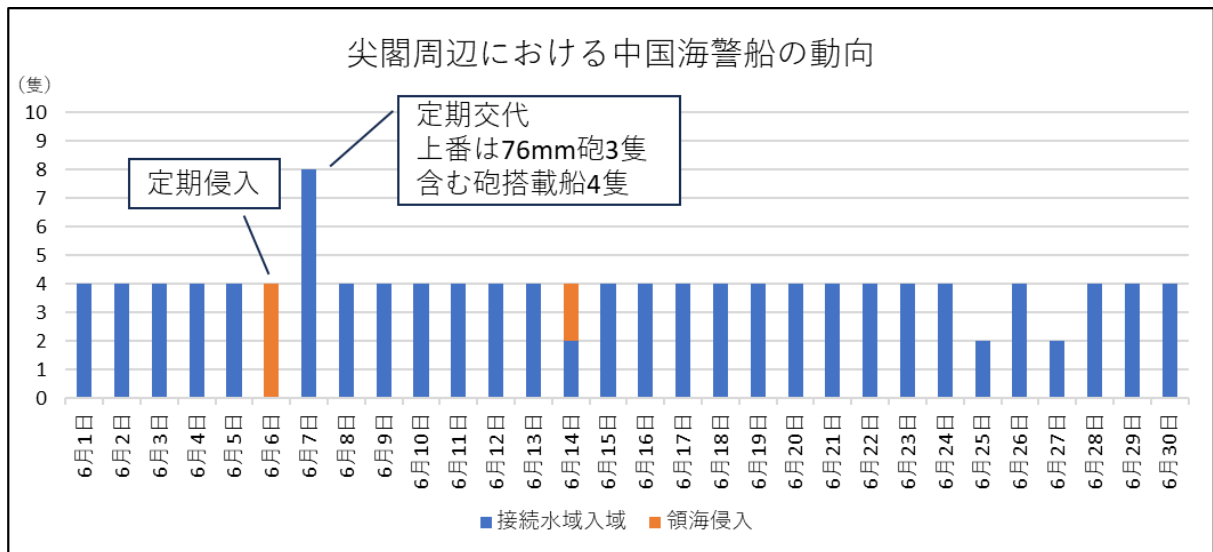
金門周辺海域での中国海警によるパトロールは月に複数回、4 隻で台湾制限水域に進入し 2 時間航行、というパターンで継続しており、6 月も同様の活動が確認された。

東沙海域においても本年に入り月 1 回の海警船による制限水域進入が定例化されつつあり、金門に引き続き、東沙周辺での中国公船によるプレゼンスを常態化させようとしている。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

4 月も砲搭載船 4 隻による活動を実施した。

定期交代は 7 日、定期侵入は 1 回であった。

通常、定期侵入は新たに上番した編隊が交代後 1 週間前後で定期侵入するパターンが多かったが、6 月は 5 月 14 日に定期侵入した第 1 支隊編隊が交代前日の 6 日に上番間 2 回目の定期侵入をした。6 日には台湾周辺で海空統合戦備警戒パトロールが実施され、7 日以降は空母 2 コ編隊が日本周辺で確認されている。軍との協同訓練等なんらかの理由により 6 日に侵入する必要があった可能性もある。

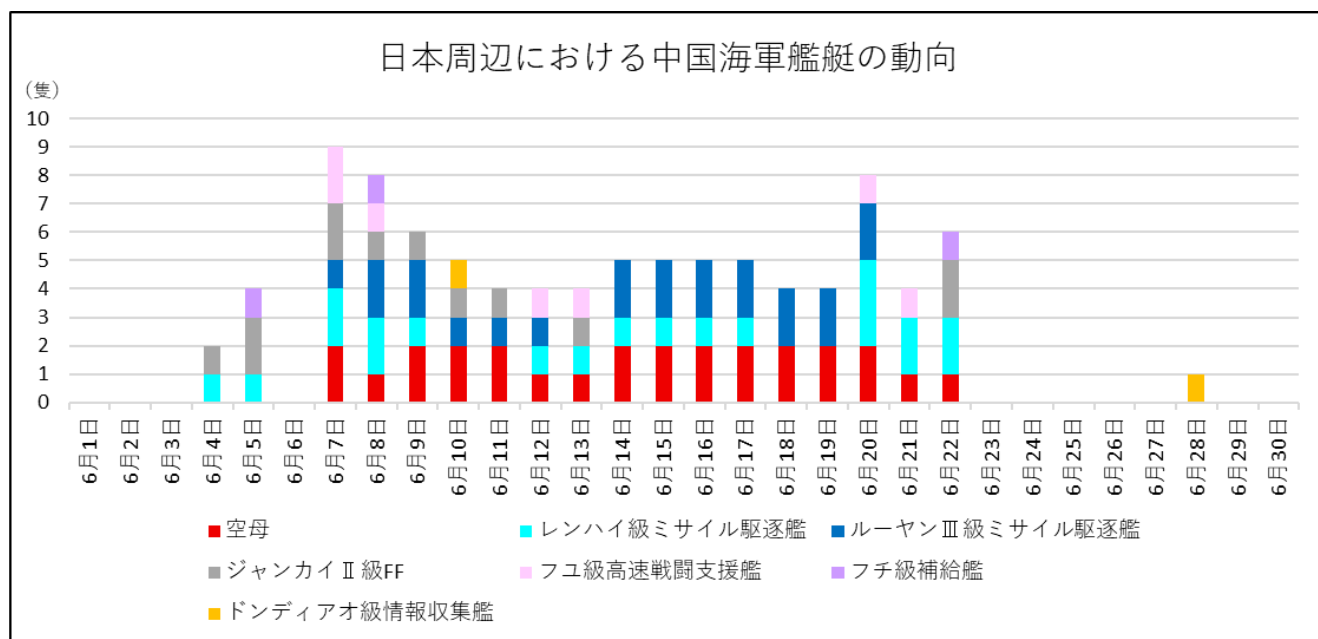
一方、7 日から上番した第 2 支隊の編隊は 14 日に 2 隻による領海侵入をしたものの、4 隻での侵入をすることなく 7 月 2 日に交代して帰港した。これまで 2 隻で侵入する場合は、主に日本領海内で操業する日本漁船に対する対応であったが、今回は日本・中国共に日本漁船の操業については報道されておらず、また侵入時間も約 35 分間であった。

以上から、もし日本漁船等侵入する口実がなかったとすれば、6 月は第 1 支隊が侵入しており、更に上番後の第 2 支隊が 4 隻で侵入すると月 2 回の定期侵入となるため、定期侵入時の 4 隻で 2 時間というパターンはとらなかったものの、侵入時の連絡態勢の確認等訓練を兼ねて 2 隻のみで短時間侵入した可能性もある。

いずれにせよ、中国側が現時点では侵入回数を増加させる必要はないと判断していると言える。

(2) 日本周辺での軍の活動状況

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向

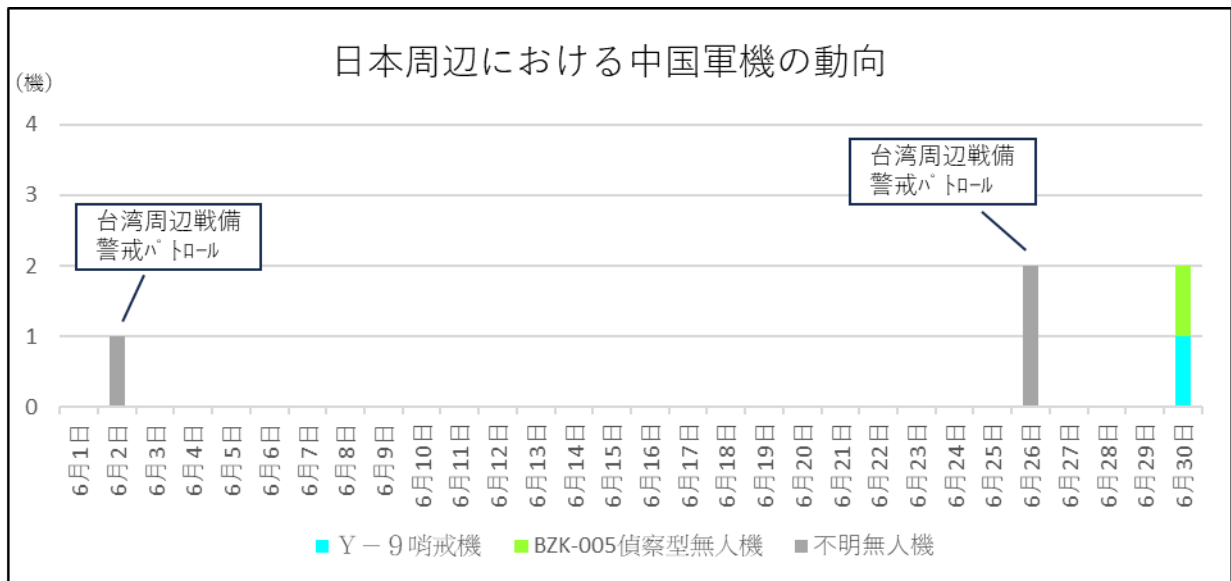


(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ 93 隻と大規模な活動が確認された

28 日の情報収集艦の太平洋進出以外は、遼寧・山東空母編隊の西太平洋遠海訓練に関連した活動であった。(西太平洋遠海訓練については「1 各軍等 (3) 海軍」の項参照)

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向



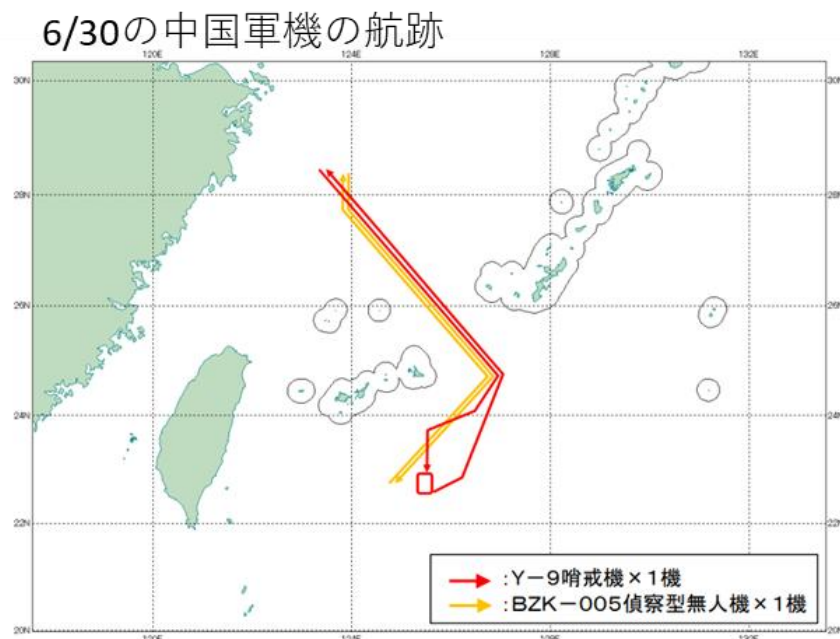
(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

【コメント】

延べ5機の活動が確認された。

不明無人機3機は、台湾周辺での戦備警戒パトロール等で台湾を周回するような航跡で飛行した機体への対応であった。

30日の哨戒機とBZK-偵察無人機は、共に午前から午後にかけて同じような航跡で飛行した。対潜哨戒時の無人機との連携を訓練した可能性がある。



(出典：統合幕僚監部20250630)

(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○ 攻撃的武器配備は地域の安定を揺るがす¹¹ 解放軍報 20250611

富士総合火力演習で初公開された 12 式地对艦誘導弾能力向上型や超音速誘導弾等の長距離攻撃の可能な武器が注目を集めている。日本は反撃能力の名の下に、先制攻撃を実現しようとしている。今年は「抗日戦争・反ファシスト戦争勝利 80 周年」であり、日本は歴史の教訓を汲み取り、安全保障分野での言動を慎まねばならない。

○ 日本が長距離作戦能力強化を加速¹² 中国国際問題研究院 解放軍報 20250619

日本は 12 式地对艦誘導弾能力向上型や超音速誘導弾、トマホークや JASSM-ER 空中発射巡航ミサイル等の導入により、長距離作戦能力を大幅に向上させようとしている。日本は歴史の教訓を汲み取り、安全保障分野での言動を慎み、実際の行動をもってアジアの隣国や国際社会の信頼を得ねばならない。

○ 海自艦艇の比訪問について¹³ 国防部定例記者会見 20250626

日本は南シナ海問題の当事者ではなく、個々の国の侵権・挑発行為を支持したり奨励したりすべきではない。我々は日本に対し、南シナ海問題で問題を起こすのをやめ、地域の平和と安定を損なうのをやめ、誤った道に進まないよう強く求める。

○ 岩田元陸幕長の尖閣諸島における中国プレゼンスの増大発言について¹⁴

国防部定例記者会見 20250626

釣魚島（筆者注：原文ママ）とその付属島嶼は中国固有の領土であり、中国が管轄海域でパトロールや法執行を行うのは、法に基づいて主権を行使する正当な措置である。最近、釣魚島情勢の安定を損ない、事態をエスカレートさせているのは、まさに日本側である。

【コメント】

自衛隊の能力向上に対し、「抗日戦争・反ファシスト戦争勝利 80 周年」を利用し牽制する手法は継続している。

一方、6 月に入り、解放軍報や CCTV「軍事報道」等において抗日戦争の英雄の功績を辿り、称える記事や番組が増加しており、9 月 3 日の戦勝記念日に向けて軍内での反日教育も加速している。

5 南シナ海動向

○ 南シナ海海域パトロール¹⁵

6月15日、南部戦区報道官が「6月14日、南部戦区が南シナ海で海空統合パトロールを実施。比が域外国を引き込み所謂『共同パトロール』を実施していることは、南シナ海の安全を危険にさらし、地域の平和と安定を破壊する。」と発表。

○ ハーフムーン礁、ロイヤル・キャプテン礁

- ◇ 6月18日、比沿岸警備隊報道官は「比沿岸警備隊と漁業水産資源局がハーフムーン礁、ロイヤル・キャプテン礁で3日間にわたる浮体式集魚装置設置作業を行い、4隻の中国海警船による妨害の中、完了した」と公表¹⁶。
- ◇ 6月19日、海警局報道官は「6月15～18日、比が多数の船舶によりハーフムーン礁、ロイヤル・キャプテン礁の近海で活動し、海警は法に基づき対処した」と発表¹⁷。

各礁の位置



集魚装置を設置する比船舶



(出典：X：Jay Tarriela20250618)

○ スカボロー礁

- ◇ 6月20日、海警局報道官は「6月20日、比公務船3006が中国の度重なる警告にもかかわらず、スカボロー礁領海に侵入した。海警は法に基づき、警告・追跡・放水砲等の必要な措置を講じ、駆逐した」と発表¹⁸。
- ◇ 6月30日、海警は「30日、海警はスカボロー礁領海及び周辺海域で法執行パトロールを実施」と発表¹⁹。

【コメント】

6月14日、海上自衛隊と比海軍は南シナ海で共同訓練を実施した。これに対し、南部戦区が「比が域外国を引き込み共同パトロールを実施」したとして同じ14日に海空統合パトロールを行った。中国は比と日米豪等との連携を強く警戒しており、牽制を継続している。

6 軍事交流

○ 南アフリカ共和国国軍司令官との会見²⁰

6月10日、董軍国防相は10日、北京で南アフリカ国防軍司令官マプヘワンヤ氏と会談した。董国防相は、両国は「同志と兄弟」の特別な友情を構築しており、中国は南アフリカと協力して真の多国間主義を実践し、覇権主義・強権政治・分裂に共同で反対したいと表明。

マプヘワンヤ司令官は、中国軍の長期にわたる強力な支援と援助に感謝の意を表し、共同演習・人材育成・海上安全保障等の実務的協力を強化したい旨表明した。

○ 中国海警・マレーシア海上法執行庁の実務会議²¹

6月16～20日、マレーシア海上法執行庁（MMEA）の8305号が海南省三亜を訪問。

マレーシア海上法執行庁サラワク州分局長のカエリ・アジズ准将と中国海警局の趙学翔副局長が中国・マレーシア海警局の初の実務会議を共同議長として開催し、双方は人的交流や情報共有、海上搜索救助、共同法執行の推進などについて意見を交換した。双方は、実務的な海洋協力をさらに深化させ、情報交換と交流を強化し、海上での突発事案に適切に対処し、地域の海洋の安全と安定を共同で維持する必要があるとの点で一致した。

○ マダガスカル独立・建軍 65 周年閲兵式への参加²²

6月26日、ジブチ保障基地分隊約50名がマダガスカル独立・建軍65周年閲兵式へ参加した。中国軍としては初の参加。

行進するジブチ保障基地分隊



（出典：中国軍網 20250627）

○ SCO 国防相会議

6月25～26日、青島で上海協力機構（SCO）国防相会議が開催。

董軍・中国国防相が主催し、ベラルーシ・イラン・パキスタン・キルギス・ロシアの国防相が出席した。

25日に董国防相は各国防相と個別に会談。イランのナシルザデ国防相は、イランは最近攻撃を

受けたが、イランの正当な立場を理解し支持してくれた中国に感謝し、中国が引き続き正義を貫き現在の停戦維持と地域の緊張緩和にさらに大きな役割を果たすことを期待していると述べた²³。

また、インドがテロリズム関連で意見の相違があり、共同声明への署名を拒否したことについて定例記者会見で質問された国防部報道官は、「各国の努力により、今会議は成功であった」と回答した²⁴。

会議での中国・イラン国防相



(出典：星島網20250625)

【コメント】

マレーシア海上法執行庁艦船が初訪問し、中国・マレーシア両国の海上法執行機関の関係強化を図った。

中国海警局は本年1月に訪中したインドネシア海上保安機構長官と初の中国海警局・インドネシア海上保安機構ハイレベル会議を開催した。また、ベトナム海洋警察とはトンキン湾合同パトロールを定期的を実施しており、4月に1回目が終了している。南シナ海周辺国である、マレーシア・ベトナム・インドネシアとの海上協力を強化し、比包囲網形成を図っている可能性がある。

【参考文献】

- 1 中国軍網 20250605
http://www.81.cn/yw_208727/16389847.html
- 2 中国人大网 20250627
http://www.npc.gov.cn/npc/c2/c30834/202506/t20250627_446239.html
- 3 中国人大网 20250627
http://www.npc.gov.cn/npc/c2/c30834/202506/t20250627_446237.html
- 4 騰訊網東部戰区微博 20250619
<https://news.qq.com/rain/a/20250619A04C3000>
- 5 南部戰区微信 20250621
<https://mp.weixin.qq.com/s/LIAIHTVHODtUZ30xnebMMQ>
- 6 SIPRI 20250616
<https://www.sipri.org/media/press-release/2025/nuclear-risks-grow-new-arms-race-looms-new-sipri-yearbook-out-now>
- 7 中国軍網 20250620
http://www.81.cn/yw_208727/16392399.html
- 8 海洋委员会海巡署 20250620、20250623
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/lp?ctNode=650&mp=999>
- 9 中国海警局 20250623
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202506/t20250623_2777.html
- 10 海洋委员会海巡署 20250623
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=165333&ctNode=650&mp=999>
- 11 解放軍報 20250611
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250611/ca8cc310b65150b0198266ea3a736319.pdf>
- 12 解放軍報 20250619
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250619/3e47510f70456ed66e0e6326293b7e16.pdf>
- 13、14 国防部網 20250626
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16393738.html>
- 15 中国軍網 20250615
http://www.81.cn/yw_208727/16391414.html
- 16 X : Jay Tarriela20250618
<https://x.com/jaytaryela/status/1935185861068603859>
- 17 中国海警局 20250619
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202506/t20250619_2760.html
- 18 中国海警局 20250620
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202506/t20250620_2770.html

- 19 中国海警局 20250630
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202506/t20250630_2780.html
- 20 中国国防網 20250610
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16390663.html>
- 21 中国海警局 20250620
https://www.ccg.gov.cn/tt/202506/t20250620_2776.html
- 22 中国軍網 20250627
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250628/d17a159e8c487ddfffb44f8d82038219.pdf>
- 23 国防部網 20250626
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16393603.html>
- 24 国防部網 20250626
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16393738.html>

中国軍事動向月報 2025年6月

2025年7月8日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。